

【 C班1グループ 】 グループ名 : つながり

はじめに

我々のグループ(つながり)では、「学生はコミュニケーションをとれているか」に着眼して討議を行った。その過程において、テーマを「公開型ポートフォリオの提案」に設定し、討議の成果報告を取りまとめた。なお、グループ名の「つながり」は、設定テーマの根底にある、人と人のコミュニケーション(=つながり)に由来する。

大学の役割とは何か？

大学とは教育を与える場であると同時に、学生を社会に送り出す役割を担うべきであるとの意見で一致した。そこで大学の役割とは、専門的知識を持ちそれをアウトプットできる人材の教育を行う機関であると考えた。

大学は何をしなければならないのか？

専門知識を与えるだけでなく、それを活用できる力(応用力)を養わなければならない。さらに、知識を発信していくためのコミュニケーション力が必要であるという意見が出された。

コミュニケーション力を高める方法の検討に先立ち、多くの学生はSNSによって十分なコミュニケーション力を有しているという見方もできたため、今回求めるコミュニケーション力の定義について慎重な議論を行った。その結果、コミュニケーションには一方的に主張し合うもの(オンライン＝SNS等)と、相手の反応を窺いながら主張し合うもの(オフライン＝対面)があり、これらへの対応力を比較すると、後者が高度であって社会に求められるものであると推定し、今回求めるコミュニケーション力と定義した。

このようなコミュニケーション力を学生に発揮させるために、自分の能力に気付かせて自信を持たせることが有効な対策のひとつであると考えた。そこで、大学は自己分析の環境作りをする必要もあると判断した。

目指すところと現状の差異は何か？

自己分析の環境作りを大学が実現するために実施すべき取組みと、現状の問題を洗い出すため、ブレインストーミングを行った。地域連携やアクティブラーニングの活用といった様々なアイデアが出されたが、多くの意見が集中したのは学生ポートフォリオの見直しであった。

ポートフォリオの現状としては、下記の意見でメンバーの意識が一致した。

【多くの大学では学生に自己分析させるためのポートフォリオの取組みを行っている】

【ポートフォリオはあまり利用されていない】

【学生はポートフォリオに興味がない】

そこで、ポートフォリオに興味を持たせる取組みを行い、これを利用させることが、自己分析の環境づくりに有効であるという結論に達した。また、本討議のテーマである「ICT の活用により改善策を実現」に沿っていることも確認した。

### 問題点を深掘りする

学生はなぜ、ポートフォリオに興味を持たないのかという点について討議を行った。メンバーの意見を整理すると次の通りである。

【就職活動のタイミングで急に学生の前に現れる】

【教員もあまり活用できていない】

【使うことのメリットが感じられない(無くても問題はない)】

これらの意見から、現在のポートフォリオには「日常的に利用したくなる理由づけ」が不足しているという問題があると考えた。

### 解決策の検討

教職員にも使わせて関係者全員がシステムをよく理解すること、学生が授業で使う機会を増やすことが、日常的にポートフォリオを利用するために有効ではないかという意見が出されたが、学生の興味を引くには力不足であると考えられた。

そこで、世界的に利用者を増加させている SNS を参考として、使いたくなるポートフォリオを検討した結果、次の機能を有する「公開型ポートフォリオを提案」することを決定した。

【いいね！機能】 承認欲求を満たし、記入モチベーションを高める

【スカウト機能】 (学生)就職に向けての自己アピール (企業)求める人材の発掘

【情報の公開／非公開機能】 自己分析のための情報には公開したくないものもある

【キーワードによる検索機能(タグ機能)】 学内の仲間作りや企業のスカウティングに有効

さらに教職員も同機能を利用することにより、趣味や特技といったプロフィールを学生に向けて公開し、教員・職員・学生の一体感の醸成が期待できると考えた。

### 成果報告に対する質問と対応策

著作権等二次配布について議論されているかという主旨の質問があった。学生が自らインターネット上に情報を公開するシステムを構築するにあたり、重要な課題である。しかしながら、今回の講習会開催中の討議においては、十分に議論することができなかった。

講習会終了後に著作権の知識を周知する次の提案がメンバーより示され、グループで確認された。

【知財の知識や権利侵害の事例等を学ぶことができるコンテンツをポータル画面に常設】

【自身のポートフォリオに上記コンテンツ既読マーク(バッジ)を表示】 →いいね！機能対象後者の機能により利用者の承認欲求も満たし、コンテンツ参照意欲の向上が期待できると考えた。

### おわりに

大学事業を ICT の活用で改善するというテーマに沿った討議を行った。様々な大学かつ部署の職員が集まることで、自由な発想を現実的な方法で整理していくことができた。

時間内に発表資料を作り上げ、与えられた時間で伝えたい内容を報告することができたのは、メンバー全員が役割をもって討議に参加したことによるものである。このような討議の機会を与えてくれた本講習会に深く感謝している。